

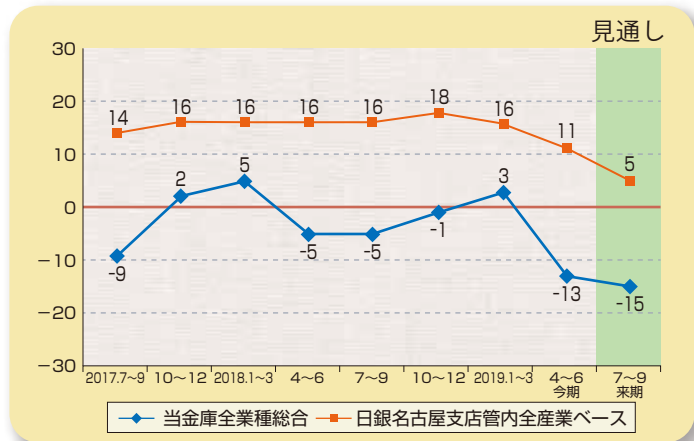
#### 実績および見通し

今期の全業種総合業況判断DIは、前期より16ポイント低下し▲13となりました。

安定した住宅需要により不動産業の業況は良好推移していますが、米中貿易摩擦等の影響から製造業の業況は大幅に悪化しています。また人手不足や材料費高騰等による収益性の低下により建設業や卸・小売業、サービス業の景況感は10ポイント以上悪化しています。

来期の予想業況判断DIは▲15となりました。人手不足感の改善見込めず、10月予定の消費増税による景気下振れ懸念や世界経済の不透明感等から、業況の低迷が予想されています。（※本調査にはG20大阪サミットや米中首脳会談等の協議結果は反映されていません。）

全業種総合 業況判断DI推移



#### 注目ポイント(フェニころからの一言)



今回は人手不足の実情について、本調査にて寄せられた調査員コメントをご紹介します。深刻化する人手不足に対し、「福利厚生を手厚くし人材確保できている」（建設業）と待遇改善を進める一方で、「待遇改善のため経費増加に繋がっている」（製造業）、「人材育成も負担」、「利益の減少にも繋がり、将来を見据えると不安要素」（ともに建設業）と経費増加による経営への影響を不安視しています。「新たに出店を予定しているが、人手不足のため悩んでいる」（小売業）と商機拡大に二の足を踏む状況も生じており、また採用活動にも「需要が増加していくとも限らず、採用できていない」（製造業）と業況不安を見越した難しさもみられます。

人手不足に対しては、今後は外国人労働者の採用も期待されています。すでに採用している、今後採用を進めていきたいとの声も多数ありますが、「法律や手続きの複雑さを考えると外国人労働者の採用は難しい」「3~4年で帰国してしまい、固定化しない」（ともに製造業）などの問題もあるようです。

#### 調査概要

1. 調査対象 愛知県内の当金庫のお取引先
2. 調査方法 調査票による面接聴取
3. 調査実績 回答数 423社
4. 調査期間 2019年6月3日~2019年6月7日

#### DI(Diffusion Index)とは

DIとは、企業の業況感や売上額の増減などの判断を指数化したもので、「良い(増加) - 悪い(減少)」の企業割合で表されます。特に業況判断DIは、その推移を観測することで景気の転換点を捉えることができることもあり、注目されています。

#### ●業種別天気図 凡例



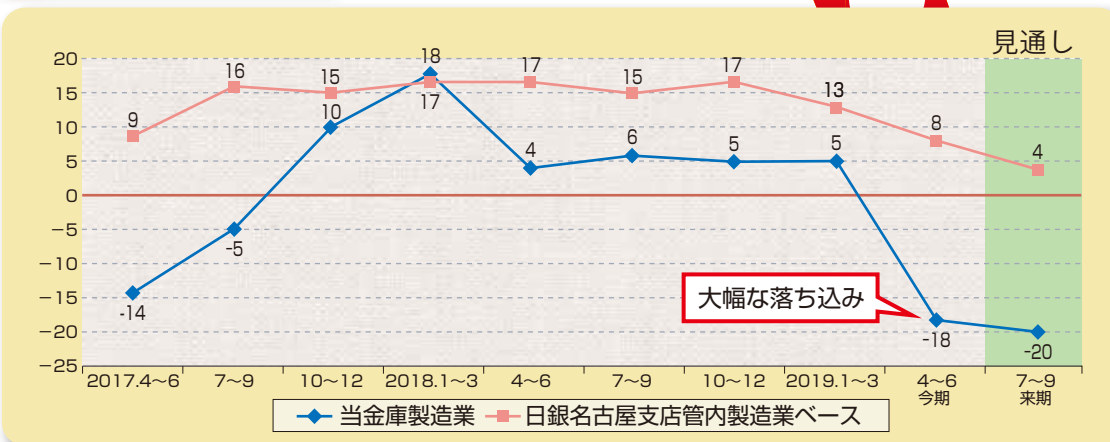
2018年 1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	2019年 1~3月	4~6月	7~9月(予想)

### 今回のポイント

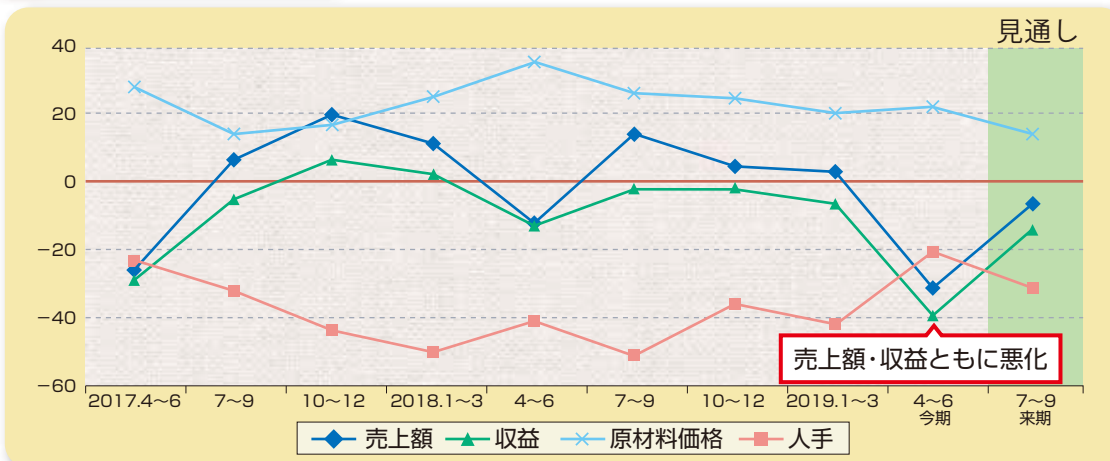
- ☑ 人手不足を背景とした省力化投資など設備投資は堅調推移していますが、一方で米中貿易摩擦の影響による中国向け輸出減少等から自動車関連や金属製品製造は売上額・収益DIともに低迷し、製造業総合の業況判断DIは前回調査時予想(9ポイント低下の▲4)を大幅に下回る23ポイント低下の▲18となりました。
- ☑ 来期の予想業況判断DIは▲20となりました。売上額・収益DIともに改善が見込まれるものの、国内外の経済情勢不安が尾を引き、業況は低迷が続きそうです。



### 業況判断DI推移



### 主要判断DI推移



※人手DIは「人手が過剰-人手が不足」の企業割合を示します。

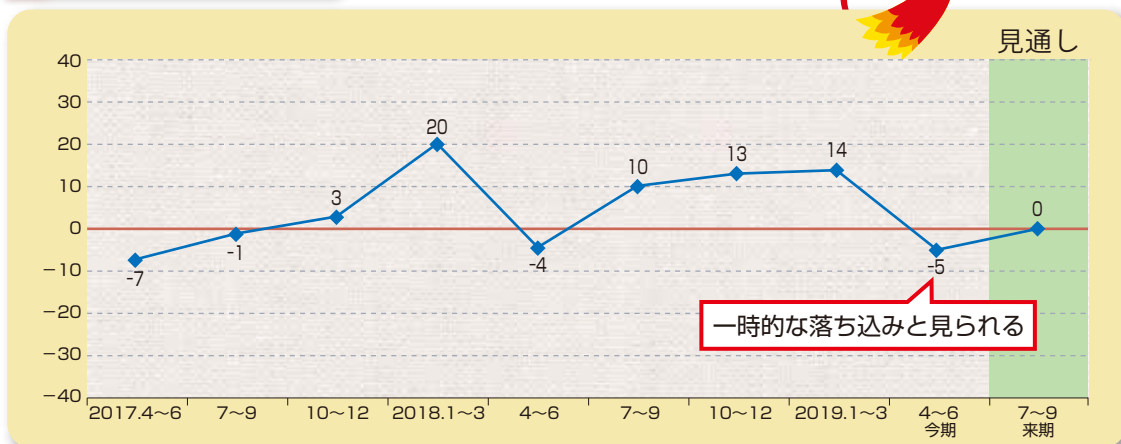
2018年 1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	2019年 1～3月	4～6月	7～9月(予想)

### 今回のポイント

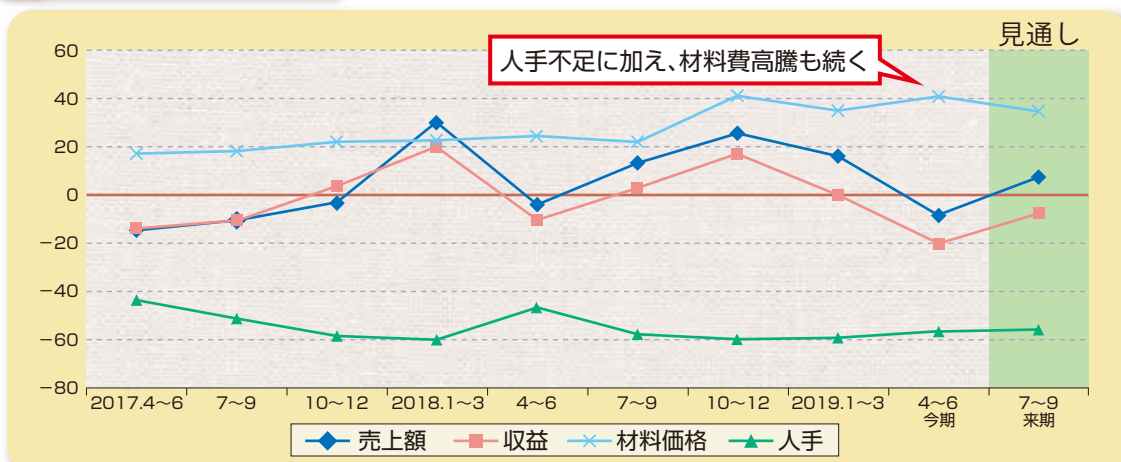
- ☑ 今期の業況判断DIは▲5となりました。毎年4～6月調査は年度替りによる受注減少等により業況は悪化傾向にあり、今期も売上額・収益DIともに20ポイント以上低下しました。一方、来期については公共工事等の受注増加により、予想業況判断DIは0まで回復する見込みです。
- ☑ 材料価格高騰と人手不足の深刻化が続き、特に人手不足は6割以上の企業が問題点にあげています。受注は順調に獲得しても人手や下請け先の確保に苦慮する声が多く聞かれ、賃上げ等による人件費・外注費の増加が今後の収益性の悪化に繋がることが懸念されます。



### 業況判断DI推移



### 主要判断DI推移



※人手DIは「人手が過剰-人手が不足」の企業割合を示します。

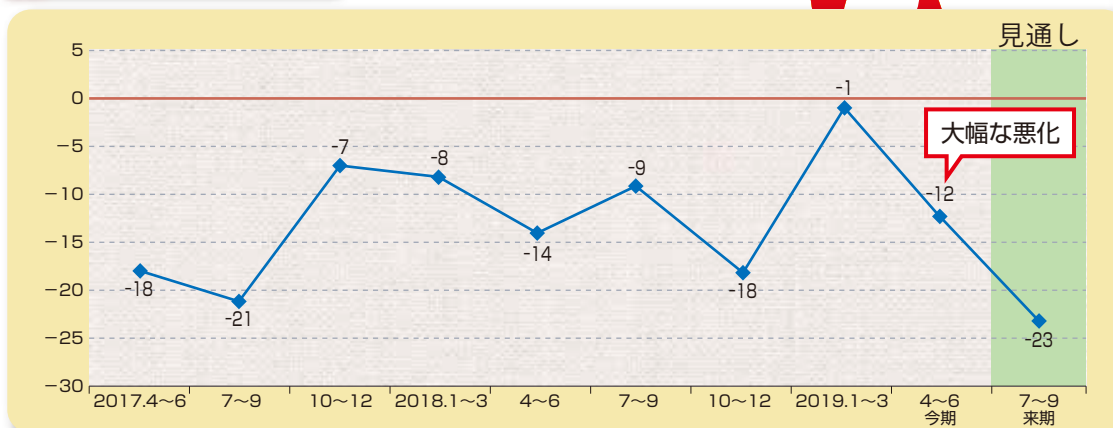
2018年 1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	2019年 1~3月	4~6月	7~9月(予想)

### 今回のポイント

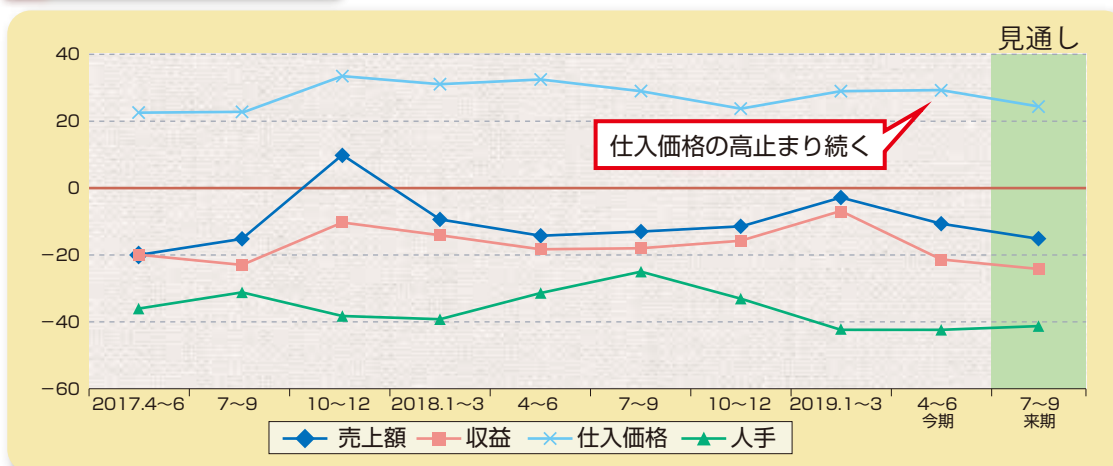
- ☑ 今期の業況判断DIは▲12となりました。食料品値上げやガソリン価格上昇を背景に消費者の節約志向が高まり、業況は前期より11ポイントの大幅悪化となりました。
- ☑ 仕入価格の高止まりや、賃上げ等による人件費増加から収益性は悪化し、収益DIは▲21と2017年7~9月調査以来の低水準となりました。
- ☑ 来期の予想業況判断DIは▲23となりました。人件費や仕入価格の上昇に加え、消費税増税を気にする声もあり、業況の一段の悪化が予測されます。



### 業況判断DI推移



### 主要判断DI推移



※人手DIは「人手が過剰-人手が不足」の企業割合を示します。

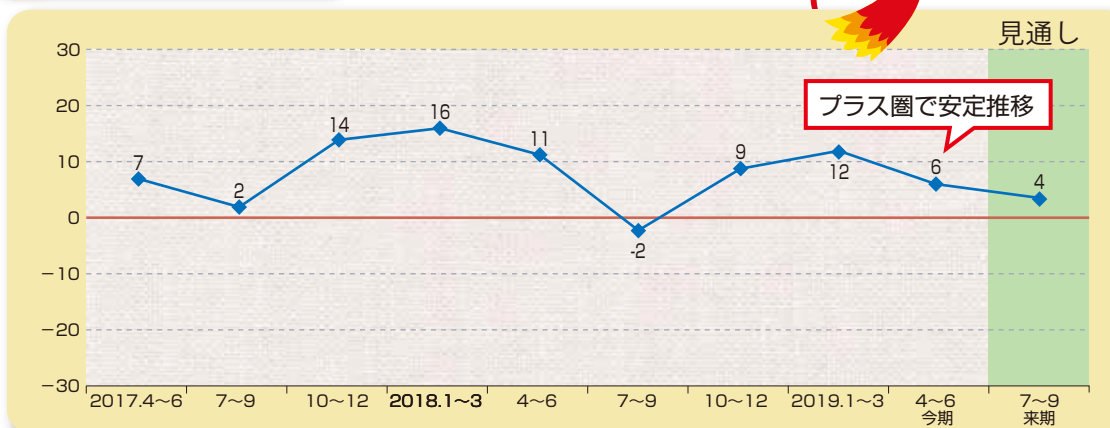
2018年 1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	2019年 1~3月	4~6月	7~9月(予想)

### 今回のポイント

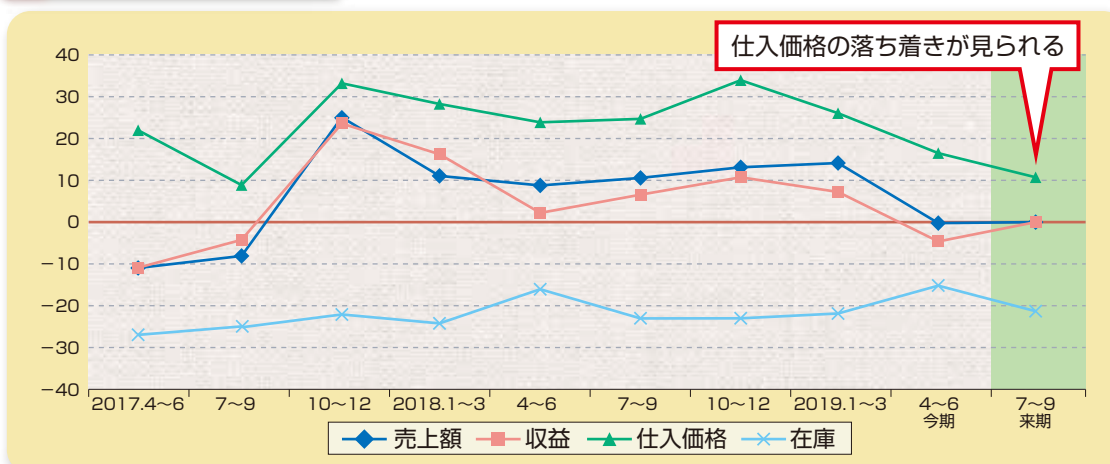
- ☑ 今期の業況判断DIは6となりました。安定した住宅需要を背景に景況感は堅調推移しています。
- ☑ 商品土地価格の高騰には落ち着きが見られ始めたものの、豊田市や長久手市等の人気地区では住宅需要が強く良物件の確保に苦慮し、地価上昇率も高くなっています。そのため、情報力を強化することで他社に先駆けた不動産情報獲得を重点施策に挙げています。
- ☑ 来期の予想業況判断DIは4となりました。仕入価格の落ち着きが見られ、収益性の改善により業況はプラス圏での安定推移が見込まれます。



### 業況判断DI推移



### 主要判断DI推移



※在庫DIは「在庫が過剰-在庫が不足」の企業割合を示します。

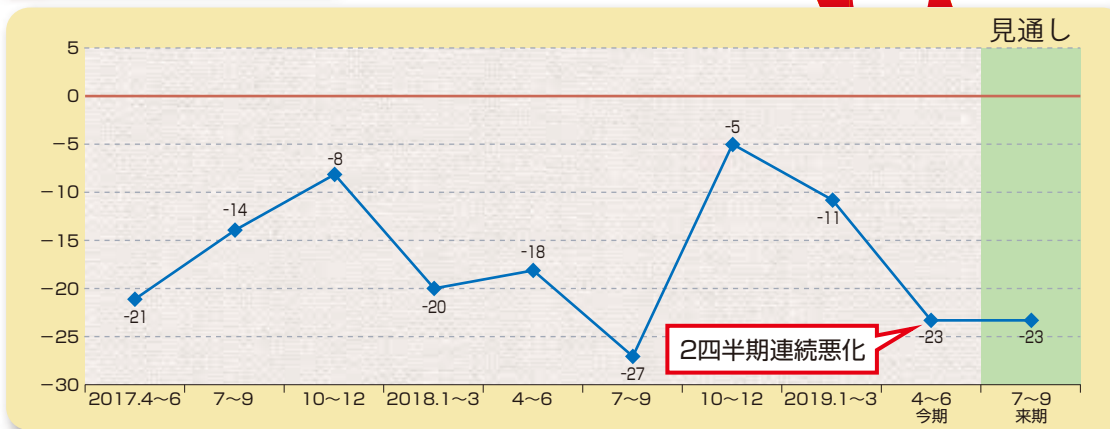
2018年 1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	2019年 1~3月	4~6月	7~9月(予想)

### 今回のポイント

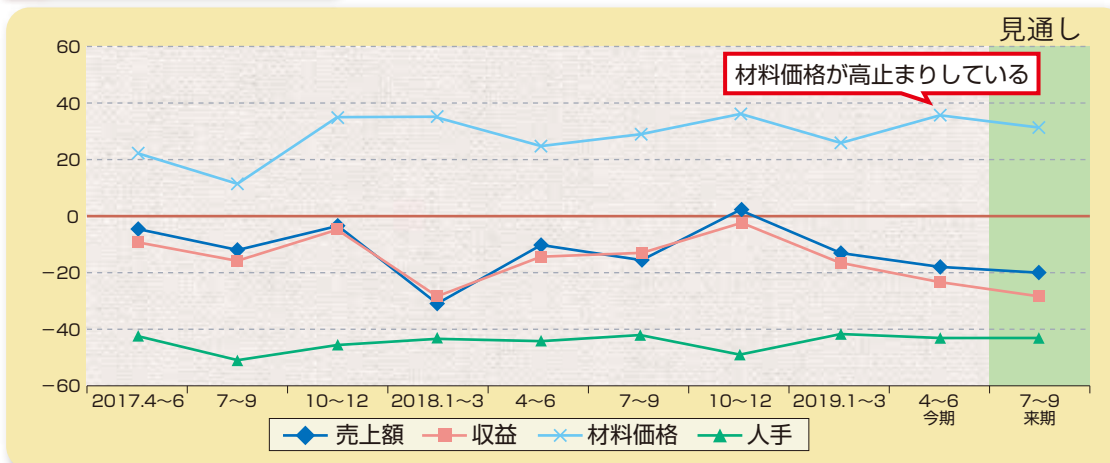
- ☑ 今期の業況判断DIは▲23となりました。同業他社との競合により販路縮小・売上低迷が続くなか、材料価格の高止まりも重なり収益性が悪化しています。
- ☑ 今期の人手DIは▲43となりました。人材確保に加え定着化にも苦慮する声があります。従業員不足のため受注見直しを行う企業もあり、機会損失が懸念されます。
- ☑ 来期の予想業況判断DIは今期と同じ▲23となりました。消費税の増税の影響を懸念する声もあり、売上額・収益DIの低迷が見込まれます。



### 業況判断DI推移



### 主要判断DI推移



※人手DIは「人手が過剰-人手が不足」の企業割合を示します。